

# 小田原教育

第130号

平成31年3月11日



## ハルジオン（5月）

ハルジオンとよく似た花にヒメジオンがあり、どちらも畑地や空き地に大変多くなっている帰化植物です。

春に咲くのがハルジオンで、初夏に咲くのがヒメジオンです。

## 目 次

|                            |   |
|----------------------------|---|
| 巻頭言                        | 2 |
| 『とりえ』を伝える先生の言葉             |   |
| 桜井小学校長 星 寄 文 克             |   |
| 1 小さなころみ                   | 3 |
| 小田原教育史の編纂                  |   |
| 鴨宮中学校教頭 高松 宗               |   |
| 3 学びの架け橋                   | 4 |
| プロジェクト研究                   |   |
| ～おだわらっ子ドリルの作成と活用法に関する研究～   |   |
| 矢作小学校教諭 川口 敦               |   |
| 4 ある教室から                   | 5 |
| 「思いを伝える」                   |   |
| 教育指導課指導主事 片倉 孝裕            |   |
| 5 研究所だより                   |   |
| ① 理科副読本「小田原の自然」活用講座（自然観察会） | 6 |
| ② パワーアップ研修                 | 7 |
| ③ 二宮尊徳学習事業作品展示             | 8 |
| ④ 新刊図書の紹介                  | 8 |

## 『とりえ』を伝える先生の言葉

桜井小学校長 星 寄 文 克



東京オリンピックが迫ってきているからでしょうか。先日、バルセロナで銀アトランタで銅の2大会連続でメダルを獲得したマラソンランナーの有森裕子さんがラジオで対談しているのを耳にしました。

～有森裕子さんの話～

生まれたときは股関節脱臼で、走るどころか、ちゃんと歩けるかどうかの方が問題でした。小学校の時は競争が嫌いだったので手芸部でした。でも手芸が上手なことで輝いている子を見て「いいな。」と羨ましく思っていました。そんな時、体育の先生が、私があまりにも自信がなさそうに見えたらしく、「君には君にしか持っていないすごいとりえがあるはずだよ。」って言ってくださったんです。そして、その先生の担当のクラブに入ろうと思っていたら、たまたま陸上クラブだったのです。陸上が好きなのではなくて、その先生のそばで、一生懸命にやるのが楽しくて、少しずつできるようになると、みんなが認めて応援してくれて・・・その繰り返し楽しくて、少しずつ自分に自信がついたのかもしれません。「とにかく何でもいいから一つ見つけてやり切みなさい。」って言われました。これが小学校の5・6年生の時です。それで中学校で800メートル走をやってみたら1番になって、それがうれしくて続けていたら3年連続で1番になったのが陸上を続けてきたきっかけです。「ことば」ってすごいですね。響くんです。そうするとイメージするでしょ。そして、それが行動になるんです・・・

不登校や自己肯定感の低い子が増えています。自己肯定感や自分を支える拠り所となるものは、子どもが自分ひとりで獲得することは難しく、周囲の大人の「子供を認める肯定的な言葉がけ」によってそれを獲得することができます。つまり、私たちは目に見えている部分だけをとらえて、「力がない」「できない」「しょうがない」「とりえがない」などの「ない」を見てしまいがちです。

通勤電車の中でたくさんの大人の顔を見ながら、この人の小中学生の時代はどんなだったのだろうと想像してしまう事があります。

どんな大人も、必ず子どもの時があったはず。

一人ひとりの「持ち味」や「よさ」はみな違って、能力はそれぞれです。人生の初期段階の子どもにかかわる私たち教職員が大事にしないといけないことは、目の前の子どもの持つ「ある」ことや「とりえ」を探して、それを伝えていくことです。小さい頃のあの先生のあの言葉、あの一言がこれから先、どこにつながっていくかわかりません。自分の口から出す言葉は、思いやりに満ちたもの、励ますもの、勇気づけるものでありたいものです。そして、その子が大人になって振り返った時に、「心に響く言葉」を贈ることができる先生でありたいものです。



## 小田原教育史の編纂

### 研究員

下川 哲也（下曾我小学校） 卯月 隆（酒匂小学校）  
高松 宗（鴨宮中学校） 川口 英明（国府津中学校）  
石井 美佐子（桜井小学校 1年目）

### 1 はじめに

「小田原教育史の編纂」は、1回目として昭和49年から10年をかけて、1822年(文政5)から1949年(昭和24)までの内容を「資料所在目録」「年表」「資料編第一巻～第五巻」「資料編補遺」という形でまとめられたものである。その後平成18年から2回目の編纂に着手し、1945年(昭和20)から2000年(平成12)までの約半世紀に渡る小田原を中心とした教育史年表が刊行された。2回目の編纂から10年が経過しており、ここで3回目の編纂に着手し、1945年(平成10)～2016年(平成28)の「小田原近代教育史 戦後年表編2」(仮題)を編纂し、次世代に引き継ぐものとする。

### 2 研究経過

1年目は、前回編纂の小田原近代教育史を参考に、日本史、神奈川県史、小田原史、備考、小田原市内公立小中学校研究一覧をつくるものとし、分担してそれぞれの資料集めに入った。参考にした資料、文献は、市内各学校の学校要覧、学校沿革史、創立記念誌、卒業アルバム、小田原の教育、広報「小田原」バックナンバー、神奈川県教育年報、神奈川県教育史、神奈川県の教育15年、神奈川県の戦後の教育史年表、神奈川県の教育戦後30年のあゆみ、神奈川県体育史、神奈川県中学校体育連盟史などを読み取り、必要なものを打ち込んだ。7月、9月、12月と集まりながら、それぞれの分担の進捗状況を交換しあい、様式をまとめた。

2年目は、それぞれのデータを全員で確認しながら精査し、誤字脱字、体裁を整える等の作業をした。

### 3 まとめ

教育史を編纂するということは、地道な作業であるが、子どもたちが学んできた足跡をみることができ、改めて学校教育の大切さを感じることができた。教育史を編纂していく価値を伝えていきたい。





## プロジェクト研究

～おだわらっ子ドリルの作成と活用法に関する研究～

共同研究「算数部会」 研究員

鈴木直人（山王小学校） 久保寺裕子（下府中小学校）

興津嘉子（片浦小学校） 川口 敦（矢作小学校）



### 1 はじめに

新学習指導要領でも、児童が確かな学力を身につけることの必要性が謳われている。知識及び技能の習得や思考力、判断力、表現力等の育成、主体的に学習に取り組む態度の涵養を目指す教育の充実に努めることの重要性については周知のところである。

そして、児童生徒の学力や学習状況等を把握することを目的として実施されているのが、「全国学力学習状況調査」である。もちろん、この調査は必ずしも学習指導要領の内容の全てを網羅するものではないので、児童生徒が身に付けるべき学力の特定的一部分であること、また学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意することが明示されている。

しかし、一部分・一側面であっても、結果をきちんと分析し、適切な対策をとっていけば確実に「確かな学力」が身に付いていくことも間違いない。

「おだわらっ子ドリル」を作成していくプロジェクト研究は、「全国学力学習状況調査」の分析から得た小田原市内の児童の学力の傾向の一部に焦点を当て、児童が楽しく、自ら進んで学習に取り組んでいく中で、学力を伸ばしていくことができるような問題集を作るべく今年度発足したものである。

### 2 研究の経過（算数部会）

まず、市販のドリルとは一線を画す、「おだわらっ子ドリル」という名前にふさわしい内容の問題集を作っていこうという目標を掲げた。児童や担任の先生方に、「おだわらっ子ドリルを使いたい。」と思ってもらうために、工夫を凝らしていくことを共通認識として確認

した。

算数部会では、主に次のことに留意しながら問題を作成していくこととなった。①習熟用に問題数を増やすのではなく、基礎力を生かし、考える力を伸長できるような良問を厳選して作成する。1M（15分）で取り組めるくらいの量にする。②少しでも興味・関心をもってもらえるように、小田原にゆかりのあるものや話題等を積極的に問題に取り入れる。③基本的には、学習を終えた後の確認・まとめ・発展という位置づけで取り組んでいける問題にする。④「全国学力学習状況調査」の出題パターンも参考にしながら問題を作成する。以上、4点を大切にしながら今年度については、3～6年生用の問題集を作成した。

### 3 おわりに

問題を作成していくと次のような課題と向き合うこととなった。①問題の内容に間違いはないか。②問題と解答の内容は一致しているか。③ひらがな表記とカタカナ表記のどちらが適切なのか。④問題文や字体、イラスト等に統一感があるか。等、挙げていけばきりがなくらいである。だからこそ、市販ドリルにはない、手作りの味わいを出していけたらと思う。児童が楽しく学習に取り組み、自然と学力が身に付いていくことを願い、少しでも多く手にとってもらえるような問題集になるよう、研究員一丸となって研究を続けていきたい。

次年度は、1・2年生用の問題集を作り、同時に学校現場で少しでも多く利用してもらえるための策を練っていく予定である。



## 思いを伝える

教育指導課指導主事 片倉 孝裕



ある小学校5年生の授業を参観したときのことです。担任の先生による外国語活動の授業でした。“Let’s start English!”のあいさつの声とともに授業は始まりました。この日の授業は“**What ~ do you like?**”を使ってインタビュー活動をするようになっていました。オリジナルのTシャツを購入する場面で店員が客に好みの色やデザインを聞き取り、Tシャツのイラストを完成させることが活動のゴールです。担任の先生はタブレットをテレビに接続し、BGMやアニメーションを活かしたスライドを表示させながら、実際の台詞を英語で言いながら説明を進めます。児童はテレビの画面を見ながら、先生の英語に耳を傾けます。その後、先生が一人二役でインタビューのやりとりを演じ、最後に黒板に掲示された英語を見ながら全員でリピートして練習しました。普段から外国語活動の時間では担任の先生が日本語を使うことはないとのことでしたが、タブレットや黒板の掲示物の工夫をすることで、児童も説明の大部分を理解できていました。

練習も終わり、いよいよインタビュー活動に入ります。無地のTシャツが描かれたプリントと色鉛筆がそれぞれの机の上に並んでいます。私のすぐ近くで活動を始めた児童の英語を使ったやりとりに耳を傾けました。“**What color do you like?**” “**I like red.**” “**What shape do you like?**” “**I like triangle.**”というやりとりをしながら、店員役の児童はワークシートにTシャツを描いていきます。しかし、Tシャツに三角形の柄を書き終えた後、手が止まりました。周りでは英

語でのやりとりがいたるところで行なわれているのですが、その児童は客役の児童を見つめたまま動きません。何かを一生懸命思い出そうとしているようです。そして、やっとひらめいたのか、突然“**Do you like red?**”と質問をしました。相手からは“**Yes, I do!**”と答えが返ってきました。どうやら何色が好みだったかを忘れてしまったようです。日本語で「何色だった？」と聞けば簡単なのですが、みんなが英語を話している雰囲気の中で、英語で話そうという気持ちになったのかもしれませんが。この児童の中では、これまでに習った数少ない表現の中で、この場面で使えそうなものを選んで口にしてみただけかもしれません。しかし、このことが「自分の考えや気持ちなどが伝わるよう、工夫して質問すること」なのです。その場に最適な表現を使わなければならない、と考えてしまうと英語を話すことは難しくなりますが、この児童のように自分の知っている表現で伝わるように考えることが「思考力・判断力・表現力等」の育成につながります。

外国語の習得には「音声にふれること」と「実際に使ってみる」が必要です。単語や文法の知識を得るだけの内容では子どもたちの意欲も減退し、英語嫌いを増やすことになります。子どもたちが積極的に外国語を使ってみようという雰囲気のなか、楽しく学習を進めている様子を見て、子どもたちのことをよく理解している担任の先生が授業を行うからこそ、安心して授業を受けられるのだと感じました。



## 理科副読本「小田原の自然」活用講座 (自然観察会)

研修相談員 荻野 淳一

市内の小学校4年生以上に配布される理科副読本「小田原の自然」を有効活用するために、年8回自然観察会を開いています。より多くの子どもたちが自然に親しみながら、自然に対する興味・関心や探究心を高め、理科学習や自由研究等の深化・発展につなげることができるような自然観察会を目指しています。参加対象は市内の小学校4年生以上ですが、定員(約50名)に満たない場合に限り、保護者引率のもと、小学校1年生～3年生も参加することができます。

各回ともテーマに沿って市内各所を訪ね、自然を観察しています。植物・昆虫・磯の生物・地形・地質・野鳥など、観察内容は多岐にわたります。各回とも専門知識を持った講師が同行し、子どもたちにもわかるように易しく説明してくれます。内容によっては、自作資料や実物資料を使って詳しく解説してくれます。参加者の中には、「新しい発見が多くて楽しかった。」「人間が自然を破壊してしまわないように考えたい。」など、小田原の自然を再発見したことや、自然と人間の共生について考えるきっかけになったことを感想に記してくれた人もいます。



このように、自然体験を通して感性を豊かにする良い機会となる自然観察会ですが、中学生や教職員の参加が少ないのが残念です。参加者の感想にもあるように、普段何気なく見過ごしている場所にも自然が息づいていて、思わぬ発見があるのが自然観察会です。小田原にはまだまだたくさんの自然が残されています。児童・生徒の皆さん、自分が通っている学校の周辺が観察場所になった時に参加してみてもはいかがでしょうか。教職員の皆さんは、教材研究の一環として是非参加してみてください。自然ばかりでなく、地域の歴史にも触れることができます。

【今年度の講座内容】 \*次年度については、4月以降教育研究所 HP で確認してください。

|     |           |                               |
|-----|-----------|-------------------------------|
| 第1回 | 4月21日(土)  | 平地の自然(あぜ道の花や虫・メダカを観察しよう)富水～桑原 |
| 第2回 | 5月12日(土)  | 海岸の自然(磯の生物を観察しよう)江之浦海岸        |
| 第3回 | 6月2日(土)   | ツバメの観察会(ツバメの観察・調査に参加しよう)市役所周辺 |
| 第4回 | 6月23日(土)  | 酒匂川の自然(河原の岩石・動植物を観察しよう)報徳橋付近  |
| 第5回 | 7月14日(土)  | 丘陵の自然(夏の虫を観察しよう)辻村植物公園        |
| 第6回 | 10月13日(土) | 城址公園の自然(秋の自然林で遊ぼう)城址公園周辺      |
| 第7回 | 12月1日(土)  | 小田原の地形(小田原の地形や地質を調べよう)弓張の滝    |
| 第8回 | 1月19日(土)  | 酒匂川水系の野鳥(冬の野鳥を観察しよう)螢田～狩川     |





今年度は、小学校14名、中学校4名、計18名の研修者が、自らのテーマとその実現のための手立てをもって実践に取り組み、よりよい授業づくりに努力していました。年間6回の研修ですが、どの先生も回を重ねるごとに着実に力をつけ、授業の改善・向上が見られ大変うれしく思いました。

第5回の研修は、研修者の代表が授業公開し、それをもとに全研修者で協議をする全体会でした。研修後のアンケートには、授業を参観することで様々な学びが得られ、それが自らのテーマに迫るヒントやアイデアになったということが数多く記されていました。

小学校では、牧岡教諭（町田小）が、テーマを「友だちと関わり合いながら、ともに高め合う授業づくり」とし「ペア学習」と「学習過程」を具体的な手立てに、5年生・算数「平行四辺形の面積」の授業をしました。2つの手立ては、様々な教科や活動にも積極的に取り入れ、学びに向かう素地づくりをし、どの子も安心して学習ができるようにしていました。



一方、「ペア学習」では、その意味、取り入れ方、必要性など、「学習過程」では、学びにつながる教師の役割や出番などが話題となり、今後に向けての改善・工夫が望まれました。

中学校では、酒井教諭（酒匂中）が、テーマを「自分の考えを英語で表現できる力を育てる授業の実践」とし「スピーチ作成用ワークシート」を具体的な手立てに、2年生・英語「スピーチをしよう—こんな人になりたい—」の授業をしました。いつもの学習過程で構成されているため生徒は戸惑うことなくじっくりと活動できていました。「スピーチ作成用ワークシート」のおかげで、取り組み方がはっきりしていたのも効果的でした。ワークシートの内容や構成、生かし方については、まだ改善の余地があるという課題があげられました。

この2つの授業公開を通して、小・中学校、それぞれのよさを学び合える研修ができればさらに幅の広い授業づくりができそうだと実感しました。

研究所では、研修者に必ず「子ども一人ひとりが主体であること・その主体者である子どもが学習に意欲的に向かうことが大切であること。それには、教材と授業者の豊かな対話があること・子どもたちが自分の考えと友達の考えと比べながら高め合えること。そこには授業者自身の生き方があることがとても重要であること。」を話します。中でも、この授業が子どもの一生にどのような意味があるのか考えて授業づくりすることの重要性を力説します。



パワーアップ研修にゴールしたら、そこから新たなスタートです。研修者の皆さんには教師になったときの気持ちを忘れず、自らの力でパワーアップできることを期待しています。



## 二宮尊徳学習事業作品展示

教育指導課専門監 秋山 和美

二宮尊徳学習事業作品展示は、平成10年度に当時の校長会長、尊徳記念館長、指導員、教育指導課職員等の関係者が集まり、二宮尊徳翁について子どもたちが学習したことを展示し、教えを広げていこうと始まりました。

現在も指導員としてご活躍中のある先生が学校でご勤務されていた時、二宮尊徳翁が油菜を育てていたという油菜栽培地跡に咲いていた油菜を自宅の庭で育て、種にして市内の小学校に配ったそうです。種をいただいた学校では、油菜を育て種から油をとりランプで使用して当時を偲んだ体験をしたり、また、他の学校では、東日本大震災の復興米をいただいたお礼として、油菜を育て収穫した種を差し上げたそうです。油菜の種とともに二宮尊徳翁の教えも伝わったことでしょう。

今もその思いは引き継がれ、毎年、市内25校の小学4年生が、尊徳記念館や二宮尊徳翁ゆかりの地を訪ね、学校に講師を招いて学習したり、教育研究所作成の副読本（「わたしたちの小田原」「二宮金次郎物語」）や書籍、インターネットなどを使って自分たちで調べたりした学習の成果を、作文や新聞はもちろん、カルタやわらじ、巻物作りに取り組んだり、子どもたちの豊かな発想でいろいろな作品として発表する機会が、この作品展です。学習した成果を前半と後半に分け、市役所市民ロビーで展示しました。



## 新刊図書の紹介

～新しく購入した書籍を紹介します～



|    | 書 名                           | 著 者      |
|----|-------------------------------|----------|
| 1  | こんな教師になってほしいー戦後の歴史から学んでほしいものー | 逸見博昌     |
| 2  | 学校現場における教育法規実践額 【上巻】 【下巻】     | 坂田 仰     |
| 3  | 学校内弁護士学校現場のための教育紛争対策ガイドブック    | 神内 聡     |
| 4  | 「道徳科」評価の考え方・進め方               | 永田繁雄     |
| 5  | 「じぶん」「いのち」「なかま」を見つめる道徳授業      | 永田繁雄     |
| 6  | 平成29年版 学習指導要録改訂のポイント          | 永田繁雄     |
| 7  | 新版 小学校道徳 板書で見る全時間の授業のすべて 低学年  | 永田繁雄 他2名 |
| 8  | 新版 小学校道徳 板書で見る全時間の授業のすべて 中学年  | 永田繁雄 他2名 |
| 9  | 新版 小学校道徳 板書で見る全時間の授業のすべて 高学年  | 永田繁雄 他2名 |
| 10 | 実話をもとにした道徳ノンフィクション資料          | 永田繁雄・山田誠 |

小田原教育 第130号 発行日 平成31年3月11日 発行者 教育研究所長 柳下 正祐  
発行所 小田原市教育研究所 〒250-8555 小田原市荻窪 300 番地 TEL0465-33-1730